

談話室

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 史料室の活動 — 自然科学系分野におけるアーカイブズとは —

関本 美知子*

High Energy Accelerator Research Organization (KEK) Archives Office

Michiko SEKIMOTO*

Abstract

At KEK, there is a section named Archives Office since 2004. The mission of the Office is for collecting and preserving, as research materials and official documents which are understood to be important from historical point of view. The Office was originally proposed by the former Director General, Hirotaka Sugawara based on his experiences as the manager of the KEK laboratory. In this article, we sketch the activity of the Office.

1. はじめに

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) は、1971 年筑波研究学園都市に文部省高エネルギー物理学研究所として発足以来、日本における素粒子物理学の中心地として、12 GeV 陽子シンクロトロン (PS)、電子陽電子衝突型加速器 (TRISTAN) そして KEKB 加速器、放射光科学研究施設 フォトンファクトリー (PF) などを建設しました。そしてこれらの施設において数多くの実験を推進し多くの先端的結果を内外に発表してきました。更に、高エネルギー物理学研究所、東京大学理学部付属中間子科学研究センターおよび東京大学原子核研究所 (核研) が 1997 年に統合されて発足した現在の高エネルギー加速器研究機構には、素粒子・原子核物理学、加速器科学、物質構造科学等の膨大かつ貴重な資料が一堂に集められることになりました。2001 年頃から菅原寛孝元機構長の発案で準備を始めた KEK 史料室は、2004 年 4 月に正式組織として発足いたしました。ここに、KEK 史料室の概要を紹介するとともに、自然科学系分野におけるアーカイブズの現状と将来について考えてみたいと思います。

2. 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の成り立ち

1971 年、文部省高エネルギー物理学研究所 (KEK)

が茨城県の筑波研究学園都市に発足しましたが、その母体となっていたのは、東京の田無市、現在の西東京市にあった東京大学原子核研究所 (核研) でした (図 1)。この研究所は、京都の基礎物理学研究所、そして乗鞍の朝日小屋といわれていた宇宙線観測所について三番目の共同利用研究所です。1955 年原子核研究所が設立されるにあたり、1954 年から 1955 年にかけて、日本における高エネルギー物理学の研究をいかに進めていくべきか、ということで熱心な議論が展開されていました。そしてこれらの議論の結果、日本に於けるこの分野の研究のため将来数 GeV の大型陽子加速器を建設する必要がある、ということで研究者側の一致となり、そのために、第一段階から数 GeV の陽子シンクロトロンの建設に着手するというものと、将来の大型陽子シンクロトロンへ進む希望も含めてまず 1 GeV 電子シンクロトロンを建設するという 2 つの意見がありました。技術的立場から電子シンクロトロンの建設へと踏み切りました。こうして核研で電子シンクロトロンの建設が始まると、まだ建設中である 1958 年、菊池正士核研所長から原子核研究所の委員会で「高エネルギー分野では、次の加速器を考えるべき時期にきているのではないか」という提案がなされ、それがきっかけとなり、1962 年学術会議会長から内閣総理大臣宛に「原子核研究将来計画の実現について (勧告)」が出されました。これは主として高エネルギー物理学のための次

* 高エネルギー加速器研究機構 KEK, High Energy Accelerator Research Organization 素粒子原子核研究所 IPNS, Institute of Particle and Nuclear Study 及び社会連携部史料室 Public Relations Department, Archives Office

期大型加速器の建設を提案したものです。この年、研究者は高エネルギー物理学同好会を設立し、素粒子物理学から核物理学までの広い分野で、理論と実験との連絡をよくし、成果や将来計画等について討論する場を拓きました。一方原子核特別委員会での議論に基づき原子核将来計画について、委員会の事務、資料の作成配布、関係資料の整理保管を目的とした総合事務局が核研に開設されることになり、その責任者として西

村純、運営は松田一久、山口省太郎が担当することになりました。この頃、将来計画関係の委員会が多く開催されるようになり、その中には高エネルギー計画準備委員会（研究者）や将来計画小委員会（学会会議）、研究所協議会原子核将来計画小委員会（文部省）などがありました。

1964年4月、「巨大加速器の基礎研究」費として、研究所に予算が認められ、将来建設される大型加速器

高エネルギー加速器研究機構のなりたち

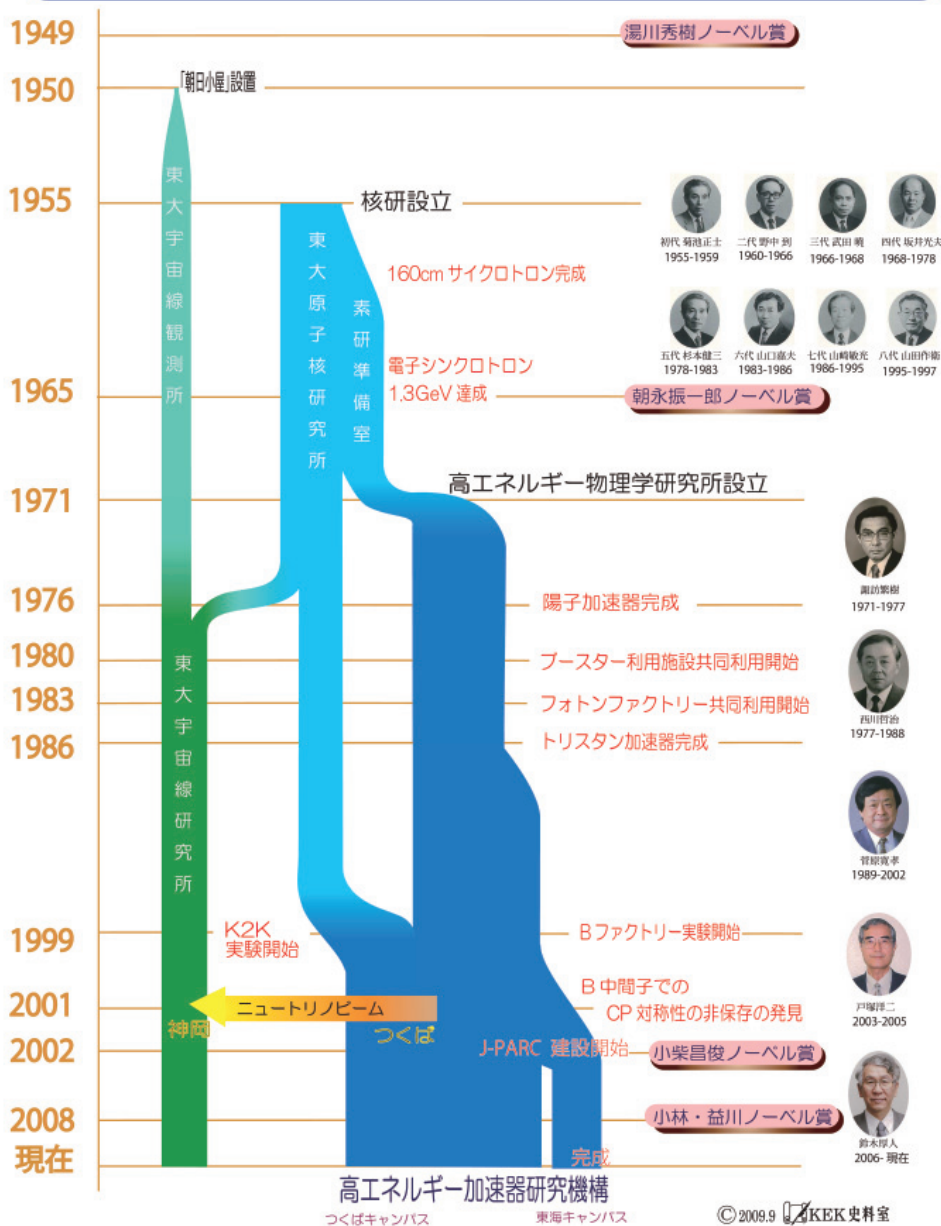


図1 高エネルギー加速器研究機構のなりたち

を中心とした研究施設である素粒子物理学研究所（素研）の準備調査室が核研に設置されました。1964年11月には第5回素研準備調査委員会が開催され、その出席者には、朝永、熊谷、早川、高木、町田、西村、三浦、野中、山口（嘉）、北垣（東北大）、柳父、三宅（弘）、佐々木（寛）（核研）、武田（実）（大阪大）、三品等の名前があがっています。翌年（1967年）に素粒子研究所準備室が核研に設置され、こうして、素研準備室を中心とした研究者達の活躍により、1971年、高エネルギー物理学研究所が、新しく拓かれた茨城県の学園都市に発足することになったのです。そこでは日本における加速器科学と素粒子物理学の中心地として、12 GeV 陽子シンクロトロン（PS）、放射光科学研究施設フォトンファクトリー（PF）を建設し、これらの施設において数多くの実験を推進し多くの先端的結果を内外に発表していきました。

1981年には電子陽電子衝突型加速器（TRISTAN）の起工式が南部陽一郎、W.K.H. パノフスキーらを迎えて行われ、1986年に衝突実験に成功し、1988年には超伝導加速空洞により電子・陽電子を30 GeVまで加速することに成功しました。そして1995年5月10日午前9時にトリスタン実験は終了となり、Bファクトリー（KEKB）加速器がトリスタン加速器のトンネルを利用して建設を進め、1999年、ベル（Belle）実験が開始されました。

1997年になって、つくば市のKEKと田無市にあった東大核研、更に東大理学部の中間子科学研究センター、これはすでにKEKのブースターを使って実験をしておりKEK所内に構えていましたが、この三つが統合され、高エネルギー加速器研究機構となりました。その結果としてそこには、日本における素粒子・原子核物理学、加速器科学、物質構造科学等の膨大かつ貴重な資料が一堂に集められることになったのです。

3. 史料室の成り立ちと現況

それではKEKにおける史料室はいつ頃できたのかというと、ちょうど核研等が統合された頃（前頁図1で1999～2001年のあたり）、当時の菅原寛孝機構長が次に控えている法人化へむけて、KEK建設時代に研究者やお役所がどう動くか、ということを知りたいということで、その資料を探したところ、あちこちどこに何があるかわからない、ということが判明しました。そこでこういった資料を整理保管するアーカイブズオフィスの必要性を痛感し、当時米国ワシントンDCで日本学術振興会（JSPS）のワシントン研究連絡センター長をしていた高橋嘉右氏に相談し、資料

の集約・整理を依頼しました。それに賛同した高橋氏は、任期を終えて米国から帰国した2002年から早速活動を開始、本機構においてアーカイブズの構築を行うための作業部会を開催することから手がけました。この作業部会の目的は、核研時代から脈々とつながるわが国の高エネルギー物理学および高エネルギー加速器の研究に関わる歴史的資料の収集整理を行うことにありました。2004年4月にはKEKの高エネルギー物理学の研究者である高岩義信氏を室長にむかえて史料室が正式に設置されました。とはいえアーカイブズがまだ認知されていない学界であるため、JSPSの国際交流事業である二国間交流事業に申請し、米国との共同研究を始めて、UCLA等で米国のアーカイブズを学びながら、KEKで資料収集・整理を進めました。一方で以前TRISTAN建設のリーダーを務め、その当時は米国ブルックヘブン研究所におられた尾崎敏先生やシカゴの南部陽一郎先生のインタビューを行なうことから始めました。徐々に史料室での活動がひろがってきてこれから本番という2006年3月、高岩氏は現在の筑波技術大学へ転出され、史料室室長が不在では史料室の運営に支障が出るという状況になり困った高橋氏は機構内で声をかけて次の室長を探し、2006年7月、筆者が史料室長という任務を負うことになりました。

1997年の機構化の際、幸い高エネ研、核研等の資料は散逸されずにつくばにあつまる事となったため、核研の設立からの歴史的に重要な史料や高エネ研の議事録等の収集・整理から着手することができました。また本機構は国際的な視野のもとに設立されているので、当然のことながら国際的な視野をふまえてアーカイブズに取り組んでいく必要があります。国内で国際的な研究所をどのようにつくってきたかという記録を残すこと、しかもそれを国際的な連携のもとで進めていきたいという考えから作業部会が設立されました。そのため作業部会のメンバーとしては、海外の専門家もアドバイザー・スタッフとして、さらにすでにリタイアした所員など研究所内外のメンバーを募り、2002年4月に第1回作業部会が開催されました。その後作業部会は史料室の設置など大きな働きを果たしつつ2007年1月までに計16回開催されましたが、作業部会の性格はボランティア的で、機構に正規に認められた活動ではありませんでした。

史料室の機構内での役割分担を明確化してこれからの史料室の活動や必要な整備の方針を検討していくために、作業部会を発展的に改組したKEK史料委員会設置が2007年2月に提案され、その後何度かの協議を経て2007年4月に史料委員会規程を定め、機構下に史

表 1 高エネルギー加速器研究機構史料室のなりたち

2001 年頃から	菅原機構長 (当時) 発案で高橋名誉教授活動はじめる。またその裁量のもとで KEK に史料室 (仮称) が置かれる
2002 年 4 月	第 1 回作業部会開催
2004 年 4 月	国際社会連繋部の下に KEK 史料室が正式な組織として設置 初代室長高岩義信氏着任
2006 年 3 月	初代室長転出
2006 年 7 月	現室長着任
2007 年 1 月	第 16 回作業部会開催
2007 年 4 月	機構で史料委員会規程が定められる
2007 年 8 月	日光実験棟地下 2 階に保管庫を設置
2007 年 10 月	第 1 回史料委員会開催
2009 年 4 月	現室長, 再任
2010 年 6 月	第 4 回史料委員会開催
2011 年 7 月	史料室利用規程制定予定

料委員会が設置されました (平成 10 年規程第 27 号)。史料委員会は、担当理事, 史料室長, 総務課長, その他機構長が必要と認める委員で組織され, (1) 機構の歴史にかかわる資料の管理並びに評価選別の基本方針に関する事項, (2) 資料の収集, 整理, 保存, 及び活用の基本方針に関する事項, (3) その他史料室の管理運営に関する事項, について審議することになりました。史料委員としては, アーカイブズに関しての専門的研究者も機構外から迎えられました。第 1 回 KEK 史料委員会は 2007 年 10 月 18 日に開催され, ここではまず KEK 史料室利用規則について協議し, 史料公開に向けての第一歩を踏み出しました。しかし, 新たに史料室利用規則を作成する上では, 情報公開法, 個人情報保護法, そして 2009 年 7 月に公布され 2011 年 4 月に施行された「公文書等の管理に関する法律 (平成二十一年七月一日法律第六十六号)」(公文書管理法) などの法律をよく理解する必要があります。その後史料委員会では資料収集のいろいろな問題について, またその評価・選別についてなどが協議されつつ, 史料委員として新たに法律が専門の研究者も加えられ, 2011 年 7 月にむけてようやく高エネルギー加速器研究機構史料室利用規程が成立される予定となっています。この委員会設置に伴い, 機構外特にアーカイブズ関連分野の有識者の方々に委員になっていただけたことで,

単に機構に関連した資料を収集していくということだけではなく, 史料室の活動・整備についての視野が大きく広がることになりました。

史料室の人員は, 2004 年発足時は, 室長, 事務職員, そして元 KEK 研究者である高橋嘉右氏と三浦靖子氏の計 4 名でした。現在は室長の他に, 常勤職員 2 名と週 30 時間勤務の非常勤職員 2 名 (非常勤職員とは研究支援員という KEK を退職された職員), という 5 名の構成になっています。室長以外の 4 名は, 史料室でのルーチン化となってきた作業 (寄贈資料の登録・保管等) をこなすと共に, 次に何をするかということに向かっていく姿勢が身についてきてどんどん作業を見つけて手がけていくようになったため, 今年度はかつてない充実した作業内容となっています。室長は日本アーカイブズ学会, 記録管理学会, ARMA 東京支部等に属し, それらの学会, 例会や講演会, また関連学会等に出席しそれらの情報を得ることにより KEK 内には決して得られないアーカイブズや記録管理に関する知識・情報を得る努力をすると共に, 機構外の専門分野の方々との連携を広めていくことになりました。また史料室のシステムとしてどのようにすると少ない人員で機能的に作業を進めることができるか, 公文書館等での見学や研修を参考にしつつ検討しています。今後は, 私達が知らない領域, すなわち, レコードマネージメントやまだ少しばかりのアーカイブズ等の専門知識をもった方, オーラルヒストリー或いはインタビュアー (これらも一種の技術ですが) に熟知した方などとの研究協力をすすめる, あるいは何らかのポジションを作って一緒に作業することによってその方々の作業を見て習う, といったことが重要になってくると考えています。

4. 史料室の活動と課題

2007 年 8 月に, それまで史料室の保管庫となっていた建物が耐震工事に入ることになり, 資料を移動する準備をしたことで, それまで受入れた資料の箱としての総数及びその内容をおおまかなりにつかむことができました。旧トリスタン加速器で加速される粒子は地下 4 階位のところを回っているので, 実験するところは地下となります。現在のメインとなる保管庫はそういったトリスタン実験棟の一つ日光実験棟の地下 2 階にあります (図 2 及び図 3 参照)。また図 4 に史料室の受入れ状況を時系列で示します。

受入れた資料は現在, 箱単位と更にその中のファイル単位を登録しています。評価・選別はまだせずに受入れたものはすべて登録していますが, 今後さらにア

アイテム（メモ、レポート、配布資料等）単位で登録していく際に評価・選別を行なっていく予定であり、例えば刊行物などは図書室の登録物と照合し、廃棄・保存を決めます。またその際に中性紙箱等に移し換えていくように中性紙箱の準備等も進めています。

さらに、各アイテムを紙のまま保存するか、デジ

タル化してモニターでの閲覧可能とするか、またマイクロフィルムにして永久保存とするか、という選択について考慮することも重要です。自然科学系アーカイブズの特に加速器科学に関していえば、歴史はまだ100年に満たない、いわば生まれたての資料ではありますが、第二次世界大戦後の紙資料は劣化が激しく、



図2 日光保管庫内部



図3 日光保管庫入口

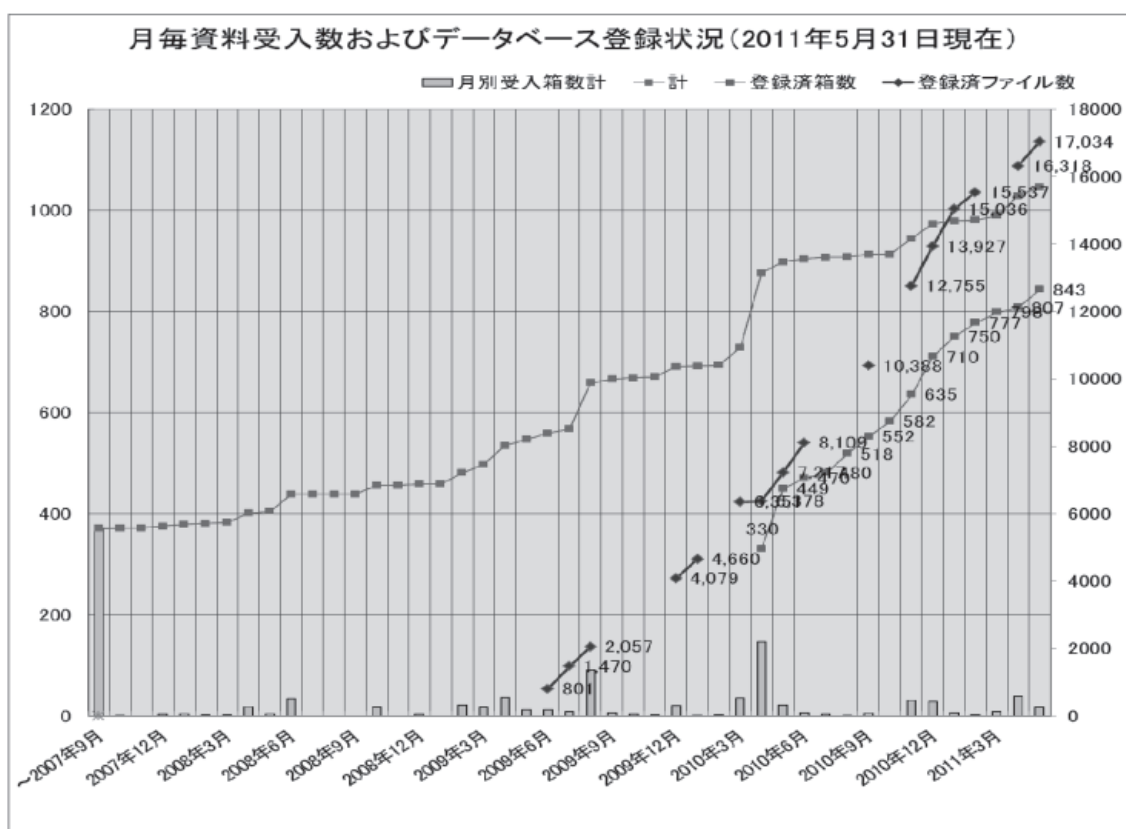


図4 2007年9月（保管庫設置時）から2011年5月までの資料受入及びDB登録状況。左の軸は箱数、右の軸は登録済ファイル数を示す。
受け入れ箱数：1046箱（登録済約80%）登録済ファイル数：約17000ファイル

例えば50年位経ったゲラ刷り、青焼き、熱感紙などの文書はすでに読み取りが不可能に近いものも見受けられます。これらは、至急マイクロフィルムにしておかなければ早晚失われてしまうでしょう。一度デジタル化して色調などを調整し、読み取り可能な状態にしてからマイクロフィルムにするという方法もあります。古文書などを扱う分野での判断では、100年以上保存可能ということが立証されているということでやはりマイクロフィルムが確実であろう、ということで、デジタル化は公開・閲覧のためのものと割り切っているようです。一方、国立国会図書館等では、公文書を取り扱うのとは異なり、一般に公開することが主眼となりますから、現在積極的にデジタル化を遂行しています。こういった背景から、KEK 史料室では、まず非現用となった法人文書や所長・機構長など機構にとって主要な活動を進めてこられた方々からの寄贈文書等をマイクロフィルムにしていくことを考えています。

以下に、KEK 史料室の活動と現況を紹介します。

4.1 各種資料の収集・整理作業

現在 KEK 史料室が収集・整理の対象としている文書は以下のように分類できます。

- 高エネ研における非現用法人文書（運営協議員会議・議事録等）の収集整理及び電子化
- その他機構関連史料（核研関係、KEK 計算機センター委員会議事要録等）等の収集整理及び電子化
- 高エネ研・本機構関連研究施設・設備などの映像資料の収集整理及び電子化
- 高エネ研・本機構関連史料・研究文書（退職者の所有していた資料、終了した研究プロジェクトに関する資料等）の収集整理と保管庫の整備

高エネ研の設立にあたり、当時の文部省とどのように折衝してきたか、また運営協議会議でどのような協議がなされてきたかを如実に物語るのには、当時の議事要録などです。上の a. および b. の史料（非現用文書）を電子化する作業は史料室当初から積極的に進められてきて現在ほぼ終了しています。半現用文書やその他機構になってからの法人文書に関しては現在、管理局との連携を持って、その保存年限を経過した文書（非現用文書）を評価選別して受入保管していく準備を進めています。しかしその上で重要なものは機構における文書管理規程であり、現規程は情報公開法施行に際して設定されたものです。2011年4月に施行された公文書管理法に則って改正される時に、文書廃棄等の判

断に際して史料室の関与等の考慮がのぞまれています。また統合された旧核研の資料についても、現在その電子化を進めており、更に「核研 OB 会」（元原子核研究所の職員・教員などで年1回懇親会や講演会を企画している）などを経て元研究者が保有している資料の寄贈保管等と呼ばかれています。現在は d. にあたる退職された機構及び関連する研究者からの寄贈や保管を依頼された文書の整理が中心となっています。当面の問題は増えつつある資料を保管するための保管庫の拡充と、これらの資料の公開にむけての作業（電子ファイル化及びマイクロフィルム化、検索機能の整備、閲覧・貸出に対する準備等）が急務となっています。

さて、KEK では資料というと文書・写真・図面といった紙、フィルム状のものばかりではありません。もう一つの重要な活動として、本機構では文書以外に機器遺産の保管・公開があります。2010年度に入り人員も強力体制となって、「機器遺産リストを作りましょう」と言い出す室員がいて、機構全体へ呼びかけるメールを流したところ、いろいろな機器に関する情報が集まりました。その資料とは、重量物・かさのあるもの等のやっかいなもの、保管のスペース確保には困難であるけれども、しかしただ廃棄してしまっただ二度と見ることのできないものなどです。一例として図5に示すのは、コッククロフト・ウォルトン加速器という、最初にビームを発生して加速する装置です。非常に大きく、また写真でお解かりのようにステンレスの壁の部屋に鎮座していますが、これをどう保管し、どう公開するか・・・ また図6は電磁石の一つですが非常に重いので、屋外に設置するとしてもしっかりとした土台が必要です。

こういった機器を今後どのように保管し公開するか、ということも大きな課題の一つとなっています。とこ

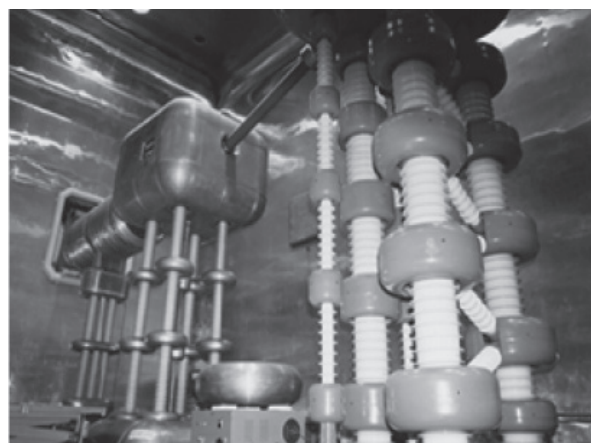


図5 コッククロフト・ウォルトン加速器

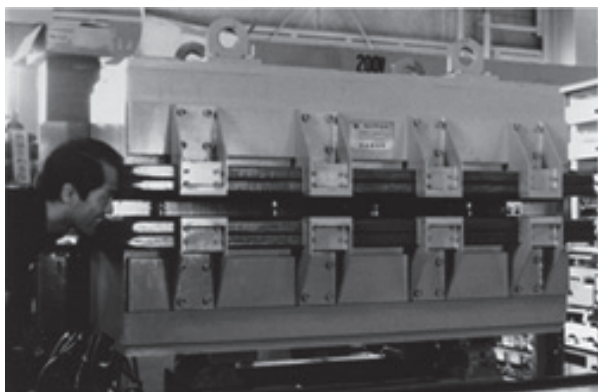


図6 PS 加速器で使用した主偏向電磁石

ろが2010年夏頃よりB-Factory及びBelle検出器の改修作業が始まり、これらの問題が現実として急浮上することになりました。特に加速器の一部である電磁石や実験の検出器等大型の機器に関しては、野外展示ということもかねてより検討されていましたが、2011年内にその第一歩として、ノーベル賞受賞となった小林・益川理論の実証実験に使われた設備の一部である電磁石が小林ホールの脇に展示される予定となっています。

4.2 高エネ研創設に関わる関係者のオーラルヒストリー収集（文書化・デジタル化作業を含む）

現実に文献として残っていないもの、あるいは本機構の母体である高エネ研の創設に係わる様々な出来事などをオーラルヒストリー（インタビュー）の形で採集しています。オーラルヒストリー収録は、前室長により、まず高エネ研創設に実際に活動した機構内外の研究者および産業界を含む関係者のインタビューを行うということに重視して行われていました。現在までで13名ほどのインタビューが行われましたが、残念ながら収集後それらを文書化する段階でほとんどが停滞中というのが現況です。文書化作業は単に外注だけでは済まないものであり、特に個人情報保護法やさまざまな法的問題を抱えるものでもあるため、今後これらをどうやって消化していくかが大きな課題となっています。この作業に関しては2010年には、総合研究大学院大学との共同研究として、人文科学研究者、特にオーラルヒストリーの研究を主としている研究者と協力してインタビューに際して取り交わす契約書の様式が整備されました。また、文書化に関しても冊子の体裁がシリーズとして定まり、2011年には「KEK最初の十年」シリーズとして研究者、研究行政に関わった方や研究者の周辺の方々など約10件が文書化およびデジタル化

されて機構内での閲覧が可能となる予定です。

4.3 アーカイブズ事業における国内および海外との共同研究・リンケージの推進

これについては5.および6.で改めて取り上げますが、現在、自然科学系分野の各種研究機関における資料室等との情報交換を推進中で、これらの中でのネットワーク形成をめざしています。国立大学法人・総合研究大学院大学・基盤機関において、2005年ころから核融合科学研究所、分子科学研究所、国文学研究資料館とKEKが中心となって、資料項目共通化による横断的資料検索システムの構築について議論されてきました。つまり、連携する各研究機関が保管する資料に、規格化された共通な項目を付けたデータベースを構築することによって、組織を超えた統合検索を可能としようという計画です。さらに、現在総研大と協力して、「KEK最初の十年」と題する共同研究をスタートし、4.2で述べたように約10名のオーラルヒストリーが文書化及びデジタル化される予定です。また、2010年10月には、米国議会図書館のTomoko Steen博士を迎えてKEKで研究会が開催されました。第一日は学習院大学安藤教授が主となって原爆アーカイブズについて、第二日は自然科学系アーカイブズの第1回会合として、講演及び討論が活発に行なわれました。この研究会で様々な分野でのコネクションが生じ、その後の研究活動により影響を与えることができました。これを機会にKEK史料室における研究協力体制が広い分野において更に培われていくことを願っています。

5. 「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」プロジェクト

アーカイブズというと、どうしても歴史学の一つという捉え方が自然科学分野では自然のようです。そういうなかで1988年に開学した総合研究大学院大学（総研大）が国立大学法人として発足した2004年、大学共同利用機関がどのような経緯で要請され認められてきたかを理解しておくことは、この変化に対して重要であり、またさらにさかのぼって今から半世紀以上前、共同利用研とはどういう考えから生まれたかを知ってはじめて、有益な将来に向けた提言ができると考え、総研大における基盤機関における共同研究が始まりました。総研大には、全国にある大学共同利用機関19機関が参加していて、それに独立行政法人メディア教育開発センターと独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所を加えて、基盤機関と称しています。戦後の1949年、新大学制度への移行にともない、東京天文台が東京大学の附置研究所となってから2004年まで

に設立された主な研究所を以下にあげます。

- 1949年 東京大学東京天文台, 国立遺伝学研究所
- 1953年 京都大学基礎物理学研究所,
東京大学宇宙線観測所
- 1955年 東京大学原子核研究所
- 1957年 東京大学物性研究所
- 1961年 名古屋大学プラズマ研究所
- 1963年 京都大学数理解析研究所,
京都大学原子炉研究所
- 1971年 高エネルギー物理学研究所
- 1972年 国文学研究資料館
- 1973年 国立極地研究所
- 1974年 国立民族学博物館
- 1975年 分子科学研究所
- 1977年 生物科学総合研究機構
(基礎生物学研究所, 生理学研究所)
- 1981年 宇宙科学研究所,
岡崎国立共同研究機構
(分子科学研究所, 生物科学総合研究機構),
国立歴史民俗博物館
- 1985年 統計数理研究所
- 1988年 国立天文台
- 1989年 核融合科学研究所
- 1997年 高エネルギー加速器研究機構
- 2004年 大学共同利用機関の法人化

注) この中で、1949年の東京大学東京天文台は、1877年(明治10年)東京大学の創設と同時に星学科が設けられたが、翌1878年本郷に理学部学生実習用の観象台が本郷に設置されたことを東京天文台の創立とみなされているそうである。そして1988年には大学共同利用機関国立天文台と改組された。また、1961年名古屋大学に発足したプラズマ研究所は1988年名古屋大学に設置された核融合研究所(仮称)創設準備室をへて1989年土岐に創設された核融合科学研究所となった。東大原子核研究所・中間子科学研究センターおよび高エネルギー物理学研究所が統合されて高エネルギー加速器研究機構になったことは1. 高エネルギー加速器研究機構の成り立ちを参照のこと。

また、以下に4大学共同利用機関法人をあげます。

(下線は、6. にあげる自然科学系アーカイブズ・ネットワークに参加している機関・研究所)

大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構(茨城県つくば市)

- 史料室 (2004年) 設置
- 素粒子原子核研究所
- 物質構造科学研究所
- 加速器研究施設

共通基盤研究施設

大学共同利用機関法人自然科学研究機構(東京都港区虎ノ門)

- 国立天文台(東京都三鷹市)
- すばる室(2002年) 設置
- アーカイブ室(2008年) 設置
- 核融合科学研究所(岐阜県土岐市)
- 核融合アーカイブ室(2005年) 設置
- 基礎生物学研究所(愛知県岡崎市)
- 生理学研究所(愛知県岡崎市)
- 点検調査資料室(2007年) 設置
- 分子科学研究所(愛知県岡崎市)
- 史料編纂室(2005年) 設置

大学共同利用機関法人情報システム研究機構(東京都港区虎ノ門)

- 国立極地研究所* (東京都立川市)
- * 昭和36年研究所設置がそもそも南極資料保管目的
- アーカイブ室(2010年) 設置
- 国立情報学研究所(東京都千代田区一ツ橋)
- 統計数理研究所(東京都立川市)
- 国立遺伝学研究所(静岡県三島市)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構(東京都港区虎ノ門)

- 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)
- 国文学研究資料館(東京都立川市)
- 国立国語研究所(東京都立川市)
- 国際日本文化研究センター(京都府京都市西京区)
- 総合地球環境学研究所(京都府京都市北区)
- 国立民族学博物館 * * * * * 梅棹(忠夫) 資料室設置
- * さらにアーカイブズ検討WGが組織されている

「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」は、高エネルギー加速器研究機構長を退職して総合研究大学院大学理事・葉山高等研究センター長となった菅原寛孝氏が2004年9月に各基盤機関長あてに送付した本プロジェクトに対する参加要請で始まりました。菅原氏は、このプロジェクトで、大学共同利用機関である基盤機関の成立史に関する研究を行なうことと、議論の基となる証拠としての歴史的資料を収集するためにアーカイブズ組織を立ち上げることを依頼しました(上のリストにアーカイブズ組織とその設置年を記載しました。ほとんどがこの要請に応える形で設置されたことが解ると思います)。そして、アーカイブズに基づく基盤機

関の成立史を「生き生きとした歴史」として記述し、それを保存・整理・公開することは各機関の社会的責任であるとコメントされました。即ち、各研究を支える基礎資料の必要性からこの共同研究が生まれ、その活動は基盤機関の資料の整理と公開、そして文書化されていない記憶のインタビューによる記録という作業を進める上での情報の交換と共有であり、そのためのサブテーマとして、以下の4課題があげられました。

- ①資料情報共有化：各機関で連携し、各々のデータベースを共通化・規格化することにより横断検索が可能となる。
- ②オーラルヒストリー (OH)：文書では残されにくい各機関と社会との係わりに重点を置いた OH (主として人文科学系研究者の目的) と、文書化されていない記憶を記録し史実と照会することを目的としたインタビュー (主として自然科学系研究者の目的)。
- ③科学映像アーカイブズ：資料基盤を形成する上で必要な要素であり、教育・広報のためのコンテンツとしても役に立つ。
- ④科学史的・社会学的研究：「歴史」を抱合する「科学と社会」の研究・教育を遂行する。

菅原氏の呼びかけにより設置された高エネルギー加速器研究機構(KEK)史料室や核融合科学研究所(NIFS)核融合アーカイブ室、分子科学研究所(IMS)史料編纂室に関係する研究者を中心に、このプロジェクトは毎年講演会や研究会等を開催しアーカイブズの構築に尽力してきました。特に2008年度には、できる限り多くの基盤機関においてアーカイブズ活動が始まることを目的として、前核融合アーカイブ室長松岡氏が中心となって、KEK, NIFS, IMS の関係者約10名で、国立天文台、極地研、生理研、基生研、宇宙科学研究本部 (ISAS)、民博、歴博を順次訪問しそれぞれのアーカイブズに関しての打合せを行ない、参加を呼びかけました。当初、例えば天文台では天体観測データ、極地研では南極観測データ等をそれぞれアーカイブズととらえていて、その膨大な蓄積はすでにあり、それなりの活動はしているという認識であったようでした。しかしさらに各組織の保管する資料の共通化・規格化した項目を共有したデータベースに置くことで、組織を超えた横断検索が可能となる効果など、上にあげた4課題について、KEK, NIFS, IMS でとりくみはじめたことを報告し議論を行なった結果、生理研、天文台、極地研においてアーカイブズ活動が具体的に始められました。この共同研究は、共同利用機関の歴史とアーカイブズ2004, 2005, 2006・2007, 2008, 2009 (総合

研究大学院大学刊行) に詳細に報告されています。

6. 自然科学系アーカイブズ・ネットワーク

2009年度で「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」という共同研究が終わりましたが、ここで築かれつつあったネットワークを終わらせてしまうには惜しいということで、2010年度に入って2回の打合せを経て、自然科学系アーカイブズ・ネットワーク (Science Archives Network) として引き継いでいくことになりました。まず第一の問題はこの活動のゴールは何か、そして連携する必要性は何か、ということです。私達の考えている資料室とは、情報 (現用資料・非現用資料) を常に管理し、必要に対応可能とすることが役目であるものであり、資料室は将来計画立案のためにも必須であるという意見に共感がありました。また別の感想として、資料はきちんと保存されていない、もう一つは2011年4月から施行される公文書管理法にわれわれはどう対応すべきか不鮮明である、というものもありました。そこで、1) 各アーカイブ室・資料室等の根拠委員会 (運営委員会、資料保存委員会等) を設置し、その委員会等の規程類を整備すること、2) 各アーカイブ室・資料室等ないし機関の共同研究、即ちそれぞれの研究資料・研究機関資料管理自体を共同研究とすることに対して所属機関・コミュニティから理解を得ることが前提となり、3) 各コミュニティ・学会等の歴史的研究資料保存の活動と4) アーカイブ資料情報共有のコンソーシアムも何らかの形で続けるということ、などについて議論されています。

一番の課題は2)で、それぞれの研究資料・研究機関資料管理自体を共同研究とすることに対して、各所属機関あるいは所属する各コミュニティからの理解を得ることが困難であるという現況です。即ち、現在の既存の共同研究の枠においてアーカイブズとは、科学史等歴史学の範疇から出ていない。科学史とは科学史家の歴史観に基づく資料収集が中心となり、そこでは収集した資料を個人所有とする可能性が大きい。しかしアーカイブズ学とは歴史観に捉われることなく中立・公平な資料収集を行ない、その資料の公開が原則となっている。まず歴史学からアーカイブズ学へと、その違いに対する認識を広める活動が重要である。という認識に至りました。

一方3)では、伝統的アーカイブズはいわゆる「文書館」・「公文書館」に偏りすぎているところがあり、アーカイブズ関係学協会 (全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会等) に分科会設置等の働きかけを行なうことは期待薄のようにもみえる。こ

のような環境の中で、各コミュニティ・学会等の歴史的研究資料保存の地道な活動が求められています。

4) は、前のプロジェクト (5) において①にあげられた資料情報共有化の発展的活動といえます。前プロジェクトで、国文研 (NIJL) の指導・協力の下に国文研が既に確立していた国際標準である EAD (Encoded Archival Description) に基づく「資料情報共有化システム」が利用されるようになりました。このシステムは本来人文科学系を対象としている NIJL のシステムで、自然科学分野の資料に適合させるには紆余曲折があり、またある時期には NIJL のオンライン総合目録が機能しないという問題が持ち上がりました。そこで、自然科学分野におけるアーカイブ資料情報交換・情報共有の場を持ち、アーカイブ資料の資料目録データ [メタデータ]、場合によっては画像等のデジタル化された内容データ [コンテンツデータ] も含め、コンソーシアム参加主体のあいだで、おたがいにデータを提供できるようなルールを、各組織ないし所属機関等において了解しておく、技術的解決は今のところ考えない、という活動の必要性があがってきています。

1) は、まず資料室あるいはアーカイブ室に関する法整備から始めなければなりません。KEK を例にとると、史料委員会規程以外に関連するものは情報公開規程、情報公開保護規程、文書管理規程、文書処理規程などで、これらは主に平成 16 年 4 月に制定されたものですが、平成 23 年 4 月の公文書管理法施行に併せて改訂が必要なものもあります。現在 KEK では史料室利用規程を準備中ですが、これも公文書管理法に則って史料室が法人文書を扱うとすると「公文書館等」の指定施設となる必要があり、その場合、利用規程も改訂しなければならないであろうと考えられます。こういったことを考えると、史料委員会等に関連する法律に詳しい専門家を迎えることも、史料室の法的環境を整備する上で重要かもしれません。

2010 年 10 月、KEK に米国 Library of Congress の Tomoko Steen 博士を迎えて、「日米のサイエンス・アーカイブズを語る」と題した研究会と第 1 回自然科学系アーカイブズ研究会が開催されました。とくに 2 日目は Steen 博士による米国議会図書館で実際に行なわれているアーカイブズの手法について、そのデジタル化や横断検索の方法に関する講演から始まり、続いて自然科学系アーカイブズ・ネットワークに参加している核融合科学研究所、分子科学研究所、生理学研究所、国立極地研究所、国立天文台と KEK で進めようとしているプロジェクトの今後の進め方について、博士の助言と共に熱心な討論が交わされました。

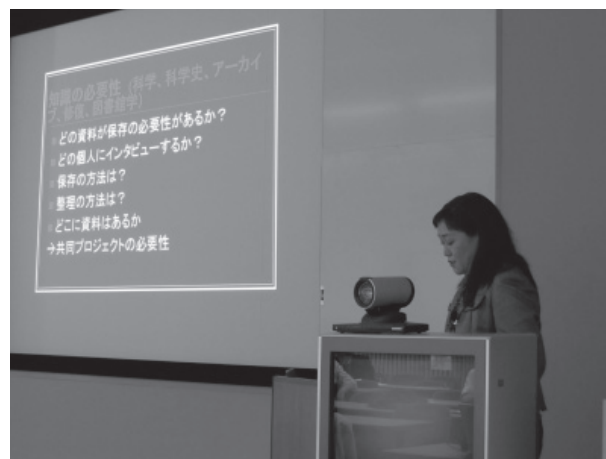


図 7 研究会で基調講演をする Steen 博士

2011 年 2 月には第 2 回自然科学系アーカイブズ研究会を核融合研で開催、京都大学大学図書館の西山伸氏を迎えて、公文書管理法への対応を進めつつある事例を参考にしつつ、京都大学等国立大学法人と比較すると小規模である研究機関におけるアーカイブズの課題についての議論がなされました。

7. ま と め

21 世紀に入って、日本では特に素粒子原子核物理学の分野において、KEK が中心となって進めてきた巨大科学は、今までのプロジェクトとその成果を広く公開し、現在そして将来にわたってその説明責任を果たしていくことがますます重要となってきています。一方で、KEK において収集整理された資料は、図書館で扱うような一般に公開されるものとは異なり、関連法規をよく理解して公開していかなければならないものも含んでいます。こういった背景を考察しつつ、KEK のような大学共同利用機関法人における法人文書を含めた資料を公開するためにはどのような問題があるか、またその解決法はどのようなものであるのでしょうか。大学共同利用機関におけるアーカイブズを考えた時、それは組織の生きた証即ちその組織運営が残されるものであると考えられます。21 世紀に入って法人化に伴い、いくつかの歴史的研究所が移転あるいは統合されていき、その研究所の生きた証である記録・文書が散逸あるいは廃棄されていったのは、日本にとって大きな損失でしたが、それを認識できる人ははたしてどれほどいるのでしょうか。その損失は未来でないと判らないものです。一方どんなに貴重な資料でも、保管庫の中でほりをかぶっているだけでは死蔵してはなりません。公開し活用されてはじめて意味があります。アーカイブズとは、歴史学だけにとどまらない、「さ

まざまな組織の（統治）情報を組織の財産、知的情報資源として集積し、活用する器」（2008年、公文書館に関する職員研修講義録：大濱徹也より）であり、過去を検証してよりよい明日に備えるものであるといえるでしょう。

2004年総合研究大学院大学・菅原センター長のよびかけに始まった基盤機関での共同研究において、最初

は科学史的な視点からにすぎないゆっくりとした歩みであったように感じていました。しかし2008年頃から核融合アーカイブ室長松岡氏等の精力的活動によって築かれた自然科学系アーカイブズ・ネットワークは、横断検索が構築された、日本において初めての『パッチャル自然科学系文書館』をいつの日か実現させるかもしれません。

表2 KEK 史料室で所蔵している資料

資料群として標題をつけ、この中に箱、ファイル、アイテム順の階層構造で登録されている。区分は、核研・素研準備室、KEK(管理局)、KEK(研究系)、史料室である。

	標題	補足	資料年代	持込者	受入年月日	資料群コード	ボリューム数	
核研 / 素研準備室	核研記録写真	核研初期の写真、学振・核研 国際学術セミナー、第16回核研国際シンポジウム、一般公開、行事等の写真およびネガフィルム	1954～1998年		2003年4月1日	kek0018	5	
	核研記録映像資料	INS-ESの終了記念映像	1957～1999年	山口省太郎	2003年7月18日	kek0020	2	
	核研保存記録資料	協議会、将来計画検討小委員会、教授会、原子核特別委員会、共同利用運営委員会、国際交流委員会、大型ハドロン計画構想連絡協議会、他、製本された資料	1952～2000年		2003年7月18日	kek0016	1	
	核研録音記録	乗鞍宇宙線観測所、開所式、10周年記念式典、電子シンクロトロン完成披露式の記録、音声記録資料	1957～1966年		2003年7月18日	kek0019	1	
	核研20年史、核研関連刊行物	核研20年史、核研OB会記念文集、東京大学原子核研究所案内			2003年7月22日	kek0036	3	
	核研所長引き継ぎ文書等		1955～1996年	核研所長室	2003年10月1日	kek0042	1	
	核研/INS SOR-RINGの建設写真	核研に建設された放射光施設（物性研）写真			2003年12月1日	kek0057	4	
	核研機構移管の記録			野村亨	2004年3月31日	kek0043	4	
	核研SFサイクロトロン活動記録	田無核研の実験施設にかかわる資料、理化学研究所原子核実験室に建設された60吋サイクロトロン建設報告、東京大学百年史		KEK第4研究系	2005年5月23日	kek0056	24	
	核研/INS-ESの記録				2005年12月31日	kek0063	9	
	1967年核研国際会議映像資料	Documents on the International Conference on Nuclear Structure		坂井光夫	2005年12月26日	kek0090	1	
	核研シンポジウム関連資料				2007年1月22日	kek0085	4	
	核研高エネルギー部資料	核研高エネルギー部、1960年代		杉本章二郎	2007年3月29日	kek0080	4	
	核研椎野氏寄贈資料				2007年4月23日	kek0084	2	
	核研関連資料	KEK理論研究系、寺澤英純氏所蔵資料、核研関連資料、核研所内報			2008年6月25日	kek0114	1	
	東京大学原子核研究所（核研）閉所式資料			竹内和子	2009年12月28日	kek0123	3	
	素研準備室関連資料					kek0082	1	
	核研電子シンクロトロン実験室					kek0083	2	
	東京大学原子核研究所ニューマトロン準備室等写真				2010年6月10日	kek0145	2	
	土地選定資料			菅原寛孝、吉岡	2002年4月1日	kek0006	1	
KEK (管理局)	総務、広報、企画	総務課より移管の非現用行政文書等	運営協議会議、評議員会議、主幹会議、放射光実験施設協議会/委員会の議事録、ブースター利用施設委員会、民間等との共同研究、加速器奨励会、素研専門小委、日米協力事業、他	1954～1997年	総務課	2009年8月25日	kek0112	91
		総務課で保管されていた資料			総務課	2006年12月18日	kek0079	10
		庶務課（現総務課）に保管されていた写真	要覧等の資料作成時に収集した資料		総務課	2003年7月18日	kek0032	9
		庶務課（現総務課）で記録した録音および録画テープ			総務課	2004年4月12日、2009年6月9日	kek0045	11
		庶務課（現総務課）保管の亀井亨氏の資料	素研準備室関係の資料		総務課	2005年1月10日	kek0065	3
		秘書室で保管されていた資料			秘書室	2003年12月11日	kek0073	10
		広報室寄贈資料	KEK広報室にて保管していた航空写真、ネガ・ポジフィルム等		広報室	2009年7月15日	kek0106	2
		航空写真ネガ	KEK物理第3系主幹室に所蔵されていた資料		企画室	2009年7月10日	kek0105	1
		企画室 評価調査係寄贈 記者発表等資料			企画室	2010年7月15日	kek0146	1

表2 KEK 史料室で所蔵している資料 (続き)

	標題	補足	資料年代	持込者	受入年月日	資料群コード	シ-ズ数		
KEK (管理局)	情報資料室 (図書室)	学術情報課 (図書室) KEK 広報資料	素研準備室, 広報, 一般公開, つくば万博 (16mm フィルム, 映画のシナリオ, 写真, 録音, ビデオテープ)		図書室	2004年5月14日	kek0046	17	
		図書室より移管を受けた資料	刊行物, 雑誌, 日本物理学会誌		図書室	2007年10月24日, 2009年7月28日, 2009年12月17日, 2010年1月8日	kek0110	3	
		学術情報資料室 (図書室) 寄贈資料 KEK 創設経緯関連	高エネルギー物理学研究所創設の経緯等に関する資料を作成するにあたり収集された資料		図書室	2010年3月1日	kek0124	11	
		職員録, 国立学校等名鑑	文部科学省職員録, 文部科学省幹部職員名鑑, 国立学校等幹部名鑑		図書室		kek0117	3	
		建設記録写真 1971-1987	陽子加速器完成記念式典兼開所式, KEK 12 GeV-PS 主リング, 放射光実験施設・建設記録, KEK プースター・シンクロトン利用施設, 泡箱及び写真解析グループ, 機械工作センター, 計算科学センター, 放射線科学センター建設記録, 低温工学センター, 東カウンター実験ホール建設, TRISTAN		図書室, 管理局	2003年	kek0120	16	
	刊行物等	KEK 発行の各種刊行物	月報 (1972年~1997年), 要覧 (1972年~2009年), ANNUAL REPORT (1971~2008年), 他	1971~2009年			kek9999	11	
		高エネルギー同好会・研究者会議の機関紙			高エネルギー研究誌		kek0035	1	
		総合事務局報ファイル	総合事務局ニュースの再録を含む.	1961~1987年	東北大学理学部物理原子核研究室 (旧森田研究室)		kek0049	1	
		新聞資料	KEK 関連記事掲載新聞, 主に管理局回覧新聞参考	2008年~	図書室	2008年10月~	kek0000	24	
		新聞資料	小林誠先生 2008年ノーベル物理学賞受賞関係記事	2008年	総務課	2011年2月8日	kek0151	1	
	KEK (研究系)	PS (Proton Synchrotron)	PS/ 陽子加速器建設の記録資料				kek0089	2	
			PS/ 陽子加速器東カウンターホールビームチャネル資料				kek0098	21	
			PS/ 陽子加速器東カウンターホール倉庫保管資料				2009年5月11日	kek0088	9
			PS/ 陽子加速器 35年史関連資料	35年史を作成するにあたり収集, 使用した資料				kek0074	1
			PS/ 陽子加速器図面					kek0142	1
計算科学センター		計算科学センター トリスタン計算機資料			計算科学センター	2005年3月31日	kek0060	3	
		計算科学センター記録資料			計算科学センター	2003年7月18日	kek0025	7	
		トリスタン計算機				2005年3月29日	kek0075	2	
		計算機関連					kek0076	1	
研究グループ等		トリスタン関係資料			菊谷英司	2007年5月19日, 2007年4月12日	kek0069	6	
		トリスタン加速器主リングおよび入射リング, 実験棟図面					kek0141	3	
		トリスタン VENUS 測定器建設写真アルバム				2006年8月10日	kek0129	1	
		トリスタン物理実験委員会 (通称 TPAC) 写真 1983~1985年					kek0128	2	
		加速器研究系刊行物	加速器科学研究発表会報告書, 高エネルギー物理学研究所将来計画検討資料		木村嘉孝, 佐藤康太郎	2009年5月19日	kek0102	1	
		加速器研究系資料	蔵書, プレプリント, 写真, スライド		加速器研究系	2003年7月18日, 2010年3月26日	kek0024	123	
		高エネルギー加速器セミナー OHO 1984年~2007年				2010年3月12日	kek0125	1	
		B 中間子物理夏の学校及びタスクフォースレポート 1989~1997年			堺井義秀	2009年7月23日	kek0109	2	
		物理第三系主幹室資料			物理第三系主幹室	2009年6月19日	kek0104	2	
		泡箱実験記録					kek0081	5	
		泡箱写真フィルム資料リスト	東カウンターホール北側のMT コンテナに収納されていた資料			2010年5月24日	kek0144	1	
		水素泡箱 (KEK 1m) 実験資料	泡箱フィルムコンテナにあった資料		佐藤任弘, 氏家, 吉見	2010年11月1日	kek0149	10	
		SSC 資料				2003年7月18日	kek0013	1	
素核研事務室寄贈資料				素粒子核研究所	2010年5月10日	kek0138	7		

表2 KEK 史料室で所蔵している資料 (続き)

	標題	補足	資料年代	持込者	受入年月日	資料群 コード	シ- ズ数
KEK (研究系)	研究者	石川隆氏寄贈資料		石川隆	2008年3月31日	kek0133	1
		氏家宣彦氏寄贈資料		氏家宣彦	2006年6月1日, 2009年3月3日	kek0078	7
		遠藤康夫氏(東北大学名誉教授)寄贈資料	中性子関係資料	遠藤康夫	2010年9月7日	kek0147	1
		大須賀関雄氏所蔵のSSC資料		大須賀関雄	2003年7月18日	kek0014	3
		大須賀関雄氏 KEK 研究交流推進室資料		大須賀関雄	2009年4月8日	kek0093	5
		大須賀関雄氏寄贈映像資料		大須賀関雄	2009年4月8日	kek0092	1
		岡田安弘氏寄贈資料		岡田安弘	2008年5月28日	kek0135	2
		奥野英城氏寄贈資料		奥野英城	2004年3月23日	kek0136	2
		小柳津氏寄贈資料		小柳津	2008年5月28日	kek0134	2
		小柳義夫氏寄贈資料		小柳義夫	2006年1月28日	kek0130	1
		加藤和明氏資料		加藤和明	2004年3月3日	kek0041	9
		川久保忠通氏寄贈資料		川久保忠通	2007年3月22日	kek0067	17
		北垣敏男氏(東北大学名誉教授)寄贈資料	高エ研創設史及び泡箱物理	北垣敏男	2008年2月6日	kek0116	1
		木原元央氏寄贈資料	大型ハドロン計画関連資料, PF 計画資料, 放射光総合研究所設立趣意書	木原元央		kek0108	2
		木村嘉孝資料	菊池健氏より引継の写真フィルム, アルバム, スライド等	木村嘉孝	2003年2月28日	kek0009	17
		菊谷英司氏寄贈資料	再建京大サイクロトロン関係資料, 法人化推進委員会資料, 機構人事 TF 資料, 所長懇談会資料	菊谷英司	2007年12月26日, 2009年6月1日	kek0103	7
		菊池健氏副所長室資料		菊池健		kek0034	11
		菊池健氏資料		木村嘉孝, 佐藤康太郎	2009年5月19日	kek0099	4
		久寿米木氏寄贈資料		久寿米木	2009年4月27日	kek0097	8
		黒川眞一氏寄贈資料		黒川眞一	2009年3月26日	kek0086	11
		黒川眞一氏寄贈資料		黒川眞一	2011年5月10日	kek0156	10
		小沼通二氏寄贈資料		小沼通二	2009年11月27日	kek0119	1
		坂部知平氏寄贈資料 世界最初のイメージングプレート の回折像		坂部知平	2011年4月14日	kek0154	1
		佐々木泰三氏資料	DESY のプレプリント, Synchrotron Radiation 関連	佐々木泰三	2003年7月18日	kek0028	1
		佐々木泰三氏寄贈資料	Synchrotron Radiation 関連資料, DESY, Daresbury のプレプリント, ウィスコンシン大学への Synchrotron Radiation Center 拡張プロポーザル	佐々木泰三		kek0113	1
		佐々木寛氏資料		佐々木寛	2004年6月28日	kek0048	16
		佐藤康太郎氏寄贈資料		佐藤康太郎	2009年8月3日	kek0111	9
		佐藤任弘氏寄贈資料	KEK1 m 水素泡箱, DC セパレーター写真	佐藤任弘	2009年10月20日	kek0122	3
		菅原寛孝氏機構長室所蔵資料		菅原寛孝	2003年3月31日	kek0008	25
		菅原寛孝氏特別資料	日米, SSC	菅原寛孝	2003年4月1日	kek0047	5
		菅原寛孝氏秘書室所蔵資料		菅原寛孝	2003年12月11日	kek0044	8
		高木修二氏寄贈資料		高木町, 小 沼通二	2010年4月30日	kek0137	1
		田井野光彦氏寄贈 PS カウンター資料		田井野光彦	2008年6月26日	kek0071	30
		高岩義信氏資料		高岩義信		kek0077	6
		高橋嘉右氏寄贈資料	KEK 史料室関連, 日本物理学会, 総研大, KEKArchives 研究資料	高橋嘉右		kek0107	1
		高橋嘉右氏寄贈資料	高エネルギー日米協力事業 30 周年記念シンポ ジウム, 今迄の日米事業の資料	高橋嘉右	2010年10月28日	kek0148	1
		高松氏寄贈資料		高松		kek0096	12
		土屋清澄氏寄贈資料		土屋清澄	2010年4月23日	kek0132	16
		土屋清澄氏寄贈資料	π 1 ビームライン用超電導 2 極電磁石 SD430 の 冷却励磁試験記録	土屋清澄	2010年4月15日	kek0126	1
		徳本修一氏寄贈資料	主に会議資料(主幹会議, 連絡運営会議, 目標 計画・人事検討タスクフォース, 表彰選考委員 会, 人事・給与システム導入検討ワーキング グループ, 技術部検討タスクフォース, 法人化準 備委員会等), 阿部勇氏資料(主幹会議, 大学共 同利用機関所長懇談会, 技官の独法化に関する 検討会, PCaPAC 1996, HEACC2001, 広報委員 会 eclipse ミーティングメモ他)	徳本修一	2011年3月28日, 2011年3月31日	kek0153	5
戸塚洋二氏資料	戸塚氏対談記事掲載の刊行物		2009年6月10日	kek0101	1		

表2 KEK 史料室で所蔵している資料 (続き)

	標題	補足	資料年代	持込者	受入年月日	資料群コード	シ-ズ数	
KEK (研究系)	研究者	中井浩二氏寄贈資料		中井浩二		kek0070	7	
		中井浩二氏寄贈資料		中井浩二	2011年5月12日	kek0157	3	
		中村健蔵氏寄贈資料	TOPAZ-TPC, PS-PAC, 加速器部会, 総研大素核専攻設置に関する資料, 科学技術学術審議会学術分科会, 大学共同利用機関の法人化に関する資料, J-PARC の運営及び運営体制検討会資料		中村健蔵	2008年4月11日	kek0066	14
		中村健蔵氏寄贈資料		中村健蔵	2011年5月9日	kek0155	2	
		西川哲治氏寄贈加速器関係資料		西川哲治		kek0087	5	
		西川哲治氏理科大学長室所蔵資料		西川哲治	2003年1月31日	kek0011	3	
		西川哲治氏自宅所蔵のスライド		西川哲治	2003年3月1日	kek0012	4	
		西川哲治氏理科大学長室所蔵資料		西川哲治	2005年12月10日	kek0062	15	
		西川哲治特別顧問室資料		西川哲治	2009年4月22日	kek0010	23	
		西川哲治氏寄贈資料	KEK3号館5F書架に保管されていたもの		西川哲治	2010年4月2日	kek0143	4
		広瀬 立成 東京都立大学名誉教授資料	オーラルヒストリーインタビュー資料			2011年5月18日	kek0158	1
		平林洋美氏寄贈資料			平林洋美	2009年12月17日	kek0121	3
		松下正氏寄贈資料			松下正	2009年4月7日	kek0095	5
		三浦功氏の資料	原子核将来計画研究体制討議資料, 日本の素粒子研究所について, 素粒子研究所準備研究総合報告 40 GeV 陽子シンクロトロン, 素粒子研究所の計画, 陽子シンクロトロン基礎研究の報告, 素研測定器シンポジウム報告書, ECFA Utilization studies for a 300 GeV proton synchrotron, 他	1964~1971年	三浦	2006年5月29日	kek0064	1
		森田洋平氏寄贈資料	主に会議資料, 計算科学センター関連 (ネットワーク委員会, 共通研究施設法人化問題WG, 独立行政法人化検討WG, EK・DEC・理経・FORE ATM ミーティング, LAN upgrade 検討部会, 機構内ネットワークを見直す検討部会, HSDCG ミーティング, HEPnet J user ミーティング, DECUS シンポジウム創立35周年記念, 他), 広報室関連 (生涯学習事業実施検討委員会, 公開講座実施検討部会, 高校生等実習受入検討部会, 外部機関主催事業への参加検討部会, スーパーサイエンススクール, つくば科学フェスティバル, 公開講座実施委員会, サマーチャレンジ, サイエンスカフェ, 他)	1989~2009年	森田洋平	2008年12月5日, 2009年6月11日	kek0094	4
		森田洋平氏寄贈資料	2007年度 Annual Report の編集委員会資料, レイアウト大幅改訂のプロセス, 編集の記録資料	2007~2009年	森田洋平	2009年6月5日	kek0100	1
		安芳次氏寄贈資料	ハードウェア (FASTBUS Processor interface for VAX/VMS, FASTBUS cable segment for 68K/OS9, データ収集用読み出しケーブル, VAX-11/780 計算機用スイッチパネル), 文書 (FASTBUS Processor interface ソフトウェア資料, FASTBUS cable segment 資料, VENUS 実験グループエレキハットレイアウト, VENUS 実験初のバーバイベントディスプレイ, 弁慶電磁石図面)		安芳次	2010年4月19日	kek0127	1
		安見真次郎氏寄贈資料			安見泰子	2008年10月1日	kek0091	16
		山口嘉夫氏所蔵 CERN/SPC 関連資料			山口嘉夫	2002年7月31日	kek0050	7
		山口嘉夫氏所蔵素粒子研関連資料	素粒子研究所準備期の資料		山口嘉夫	2002年7月31日	kek0021	10
		山口嘉夫氏所蔵 ICFA 資料	ICFA に関する資料		山口嘉夫, 山田作衛	2003年7月18日	kek0022	2
		山口嘉夫氏所蔵の研究者に関する資料			山口嘉夫	2005年4月18日	kek0055	2
		山口嘉夫氏の個人的な資料			山口嘉夫	2005年4月22日	kek0061	2
		山口省太郎氏寄贈資料			杉本章二郎	2007年3月29日	kek0068	1
		山田作衛氏所蔵 ICFA 資料			山田作衛	2003年3月31日	kek0051	1
		和気正芳氏寄贈	VENUS Magnet 製作資料, 共通基盤研究施設・超伝導低温工学センター		和気正芳	2011年3月9日	kek0152	3
		Prof.S.Olsen, Dr.Tom Bro w der 寄贈資料	TRISTAN AMY 関連資料, 高橋氏, TomBrowder 氏経由で寄贈された。		Dr.Tom Bro w der, Prof.S.Olsen	2010年12月1日	kek0150	5
史料室	オーラルヒストリーインタビュー関連資料	KEK 史料室管理オーラルヒストリーインタビュー記録		史料室		kek0118		
	史料室内保管資料	蔵書, アーカイブズ関連資料		史料室		kek0115		
	史料室内保管資料 (DVD-R, CD-R)	KEK 製作ビデオ, 記録映像, 写真, 書類等のデジタル化資料		史料室		Media		